

1. 出穂期予想と出穂後の水管理

◆ 出穂期予測（7月20日幼穂調査、庄内普及課）

出穂期は平年並みの予想ですが、今後の天候によっては早まる可能性があります。

幼穂による出穂予想(7月10日、庄内普及課：調査圃調査結果)

地域	品種	予想出穂期	平年出穂期	平年差
矢馳	はえぬき	8月4～5日	8月5日	±0
上清水	つや姫	8月10～11日	8月10日	±0
下小中	雪若丸	8月3～4日	—	—
余目新田	はえぬき（鉄コ）	8月11～12日	8月14日	-2

◆ 出穂後の水管理（台風接近時の注意点！）

- ・ 出穂期は、稲が最も水を必要とする時期です。出穂が始まったら1週間程度は、水深2～5cmに湛水しましょう。その後は、間断かん水（2日湛水、2～3日落水を繰り返す）で稲体の活力を維持し、**出穂後30日間は落水しないようにして、登熟を高めましょう。**
- ・ フェーン現象や強風による白穂の発生や登熟不良で減収することがあります。**その場合は天気予報や台風情報をチェックし、湛水して稲体を保護しましょう。**

2. 斑点米カメムシに注意！！

◆ 斑点米カメムシ類対策

- ・ 病害虫防除所が行っているすくい取り調査では、**斑点米カメムシ類の発生は平年よりやや多く、7月12日に注意報第1号が発表されました。**斑点米カメムシ類による被害を防ぐため、畦畔等の草刈りを確実に行いましょう。
- ・ もうすぐ草刈り休止期間となります。休止期間中の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田に追い込み、斑点米の発生を助長することになります。地域ごとの草刈り休止期間を確認し、休止期間になる前に草刈りを終わるようにしましょう。
- ・ **斑点米カメムシ類防除は、「①穂揃期」と、「②穂揃期の7～10日後」の2回防除が基本です。**地域の防除計画に従い、防除を徹底しましょう。

農薬の散布により、「みつばち」に被害が及ぶ可能性があります。近隣のみつばち飼育の有無を必ず確認し、「みつばち」飼育者に農薬散布の情報を提供する等、連携を密にし、被害を防止しましょう。

